

第 19 回東海北陸作業療法学会

自主企画

「病院施設生活から地域生活へ ～作業療法士がつなぐ地域の暮らし～」

鈴木麻美

ワークセンターふたば

地域って何だろう？ 地域で働く作業療法士の役割について聞いてみよう！

多くの方は、生活の場として住み慣れた地域や家庭を望むことでしょう。作業療法士はクライアントそれぞれのライフステージに応じ、「作業」をキーワードにサービスを展開します。障害を持たれた方々が「社会的存在」としてどのように自分の人生を再建できるのかが、私たちが地域作業療法を展開していく上での最大の関心事です。

就労支援での作業療法士の役割

平成 25 年法改正により、精神障害者の雇用義務化が課せられることになりました。それに伴い平成 30 年 4 月より障害者の法定雇用率は民間企業で 2.2%、国や地方公共団体では 2.5%となっています。このように近年において障害者の社会参加の機会が大幅に拡大しています。しかし、雇用の水増し問題のニュースは記憶に新しいことであり、現実には順調とは言えない印象にあります。

私たち作業療法士はこのような状況の中で、1 人でも多くの障害者が社会で役割を得て必要と認められる存在として、また彼らが期待され、やりがいのある仕事を見出すことを目標としています。クライアントとともに考え、彼らの希望に寄り添いながら、専門家としての視点を踏まえ支援しています。その支援方法について日々悩み、考え研鑽を積んでいます。障害の有無に関わらず、自分の人生を自分で切り開く意思決定と責任を持てることが理想かもしれません。適性に応じて、能力を十分に発揮して働くことが出来るようにしていくことは障害者雇用に関し国家が重要視していることで、障害者の就労支援スキル向上は重要なことと私たちは認識しています。今や経験と勤だけではこれらの就労支援は成り立ちません。

地域に地繋げる、意味と異議を含め繋げる場があることをお伝えしながら私たち作業療法士の役割について考える機会にしたいと思います。地域で働く作業療法士が数々の事例を通して作業療法士の役割をお伝えし、みなさんと共有できればと思います。